

「再会」

広島県 溝口 純子様

私が幼稚園児の頃の話だ。お弁当の日に隣に座る友達のお弁当を見ると、お弁当箱の中に、お花型の大きなソーセージが入っていた。当時は今のようなキャラ弁やデコ弁などない時代である。友達と「かわいいお弁当箱だね」なんて話は時折していたが、お弁当の身がかわいいというのは衝撃だった。

私はすぐに母に報告し、私のお弁当にもお花型のソーセージを入れてほしいとせがんだ。半信半疑の母と一緒にスーパーへ行ってみたが、お花型のソーセージなどどこにも売られていない。「本当にそんなソーセージがあったの？」と私の勘違いを疑われる始末だ。二歳上の姉にも「友達のお弁当で、お花型のソーセージを見たことないか」と尋ねてみたが、そんなもの見たことないとあっさりと言われてしまった。

スーパーにお花型のソーセージがなかったと友達に伝えると、律儀な友達はお母さんに聞いてくれたのだろう。後日「遠くに住むおばあちゃんが送ってくれたんだって」と教えてくれた。しかし、その遠くがどこなのかはわからなかった。もしかしたら友達は地名を教えてくれたのかもしれない。しかし残念ながら、幼稚園児の私の頭には残らないまま、その後お花型のソーセージを見ることはなく、いつしか記憶も薄れていった。

その後、大人になった私は結婚し、夫の転勤で広島へ来た。

ところ変わればスーパーの商品も変わってくる。広島ならではの商品を見つけて楽しんでみると、ソーセージ売り場の片隅に花形のソーセージがあるのが目に入った。

衝撃が走った。

幼稚園児の頃の記憶が蘇り、頭の中を駆け巡る。あった。花形のソーセージは、本当にあったのだ。

幼稚園に通っている娘の親子遠足が数日後に控えていたので、私は花形のソーセージを購入し、そのお弁当に入れることにした。

遠足当日の朝。花形のソーセージを切って軽く焼く。幼稚園児用の小さな弁当箱に入れ

ると、なかなかの存在感だ。そうそう、この感じ。かつてあこがれた、友達のお弁当を思い出す。私のお弁当にも入れてみた。弁当箱のサイズが大きいので存在感は幾分和らぐが、やはり弁当箱の中がパツと華やかになるのがわかる。

遠足の行き先は動物園だ。動物園の中を散策した後に、芝生の上で娘とお弁当を広げる。

広い動物園を歩き回った後なので、親子ともにお腹はぺこぺこだ。

「わぁ！ お花だー！」

お弁当の蓋を開けると、隣で娘が歓声を上げた。自分で作っておいて何だが、お弁当を開けた瞬間、私も娘と一緒に歓声を上げそうになった。30年前の、初めて花形のソーセージを見た幼稚園児の頃に戻ったような気がした。お弁当を見て、思わず顔がほころんでしまう。

娘と「いただきます」と言ってソーセージを口に入れる。

30年越しの思いを胸に初めて食べる花形のソーセージは、言葉に尽くせないほど、最高に、最高に美味しかった。